

単
元
名

～ハンディキャップ体験～

車いすでの生活を体験しよう

○ 小学校 (5・6) 年 教科等 (総合的な学習の時間)

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

(教科等で付けたい力)

- ・車いすに乗ったり、介助したりする体験を通して、車いす利用者の気持ちを共感的に理解する。
- ・地域社会の中で車いす利用者に出会った時の望ましい行動や、バリアフリー社会について考える。

(学校図書館等の活用で付けたい力)

- ・車いすの仕組みや介助方法などについて、図書資料やインターネットなどを使って調べる。
- ・図書資料からわかったことを、実際の体験活動などに生かす。

○ この単元における学校図書館を活用した情報活用能力の育成に向けて

- 情報収集…車いすに乗る、介助するために必要な情報を、図書資料などから得る。
- 整理・分析…集めた情報をワークシートにまとめていく。
- まとめ・表現・発信…図書資料で集めた情報を体験活動や実生活に生かす。体験を通して考えたことを共有する。

○ 学習の展開 (全4時間) (学校図書館等を活用した時間は☆印にて記入してください)

第1時	○車いすのことを知ろう (☆) ・車いすについて知っていることやイメージを出し合う。 ・図書資料やインターネットを使い、車いすに関する情報を集める。
第2・3時	○車いすで学校生活を体験しよう (☆) ・実際に車いすに乗ったり介助したりして、車いすでの学校生活を体験する。 (本時)
第4時	○バリアフリーな社会について考えよう ・体験を通して考えたことを共有し、実生活へと考えを広げる。

(本時 2・3 / 4 時)

☆学校図書館等活用(本時)の学習

本時のねらい
車いすに乗ったり、介助したりすることを通して、車いす利用者の気持ちを共感的に理解する。

学習展開

時間(分)	主な学習活動	指導上の留意点
10	1. 車いすの乗り方や介助方法、コースなどを確認する。	・社会福祉協議会から車いすを借りておく。
車いすでの学校生活を体験しよう		
50	2. ペアで車いす体験を行う。 ・以下のコースを介助したり自走したりしながら体験する。 ・段差の上り下り ・黒板に文字を書く ・机で文字を書く ・ぞうきんを絞る ・曲がり角	・図書資料を用意しておき、体験の順番を待つ間や体験後に、車いすの介助方法などを確認できるようにしておく。 ・マットなど少しの段差でも引っかかることなど、車いすを使用しないときとの違いを意識させる。
25	3. 車いす体験を通して考えたことをワークシートに書き、全体で共有する。	・「楽しかった」「難しかった」だけで済ませず、具体的に困ったことや気をつけたことを思い起こさせる。
5	4. ふりかえりをする。	

図書館活用
ポイント



待機場所で、体験前後に車いすの介助法などを再確認できるようにしました。